

かしま HOT 通信

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

10月号 Vol.345

令和3年(2021年) 10月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室

■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143

福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室(江坂宛)まで

r-esaka@kashima.jp

1
2

巻頭特集

更なる満足度向上のために

「第14回患者様満足度調査結果報告」

3

患者ご家族様の声

『在宅医療の出会いから生まれた私の時間』

4

コラム ひんがら目(172)

「ものがあつても人がいなければ
医療は困難です

医療センターへ呼吸器内科医を』

呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

10月11日(月)は通常診療です

かしま荘通信



診療体制変更のお知らせ

10月1日より、診療体制が変更になりました



整形外科

●窓口C(整形外科受付)が廃止になりました。

受診の際には、再来受付機で診療受付後、診療受付窓口(旧窓口A・B)に診察ファイルの提出をお願いします。診察室と待合場所は今までと同じです。



皮膚科

●新たに木曜日を診療日に追加しました。

火曜日、水曜日、木曜日、金曜日が診療日になります。

●金曜日の診察が、2診体制から1診体制になりました。

太田真由美先生の診察がなくなり、松本麻衣先生の1診体制になります。

巻頭特集

更なる満足度向上のために
第14回 患者様満足度調査 結果報告

ENQUETE



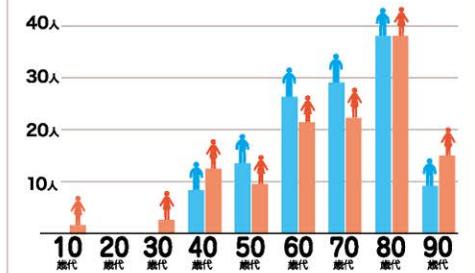
かしま病院を選んだ理由



基本情報

- 実施期間 ●令和2年4月1日～
令和3年3月31日
実施方法 ●全退院患者様にアンケート用紙
を配布し、回収
配布枚数 ●1947件
回収枚数 ●202件
回収率 ●12.7%

患者さんの性別・年齢



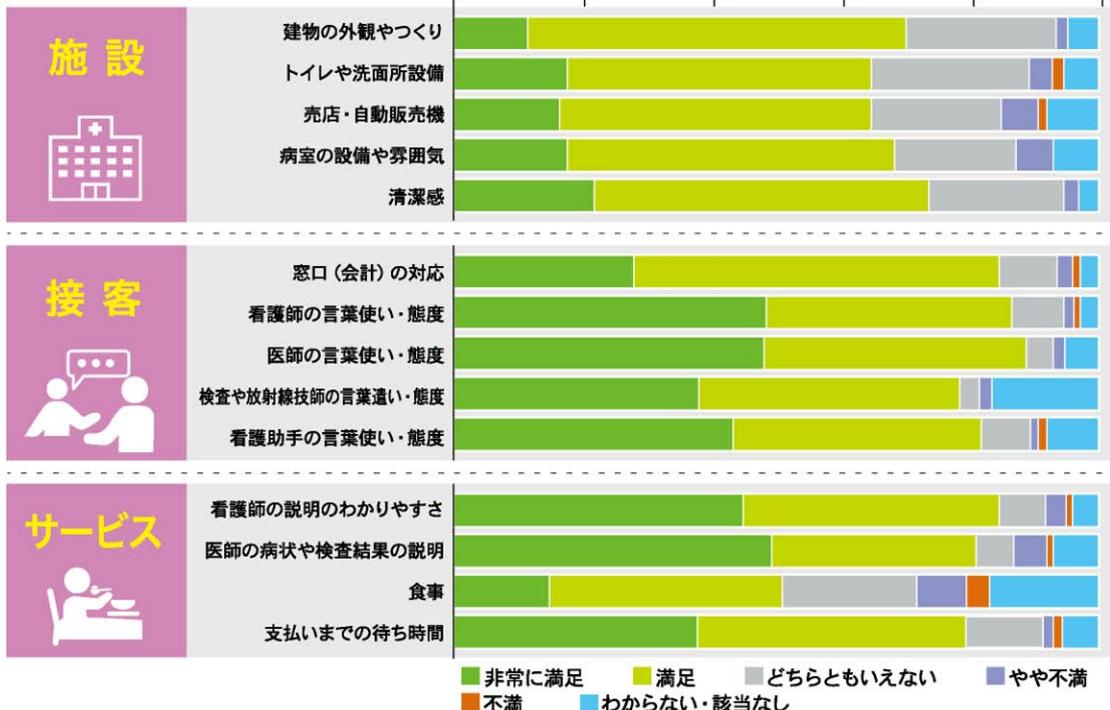
患者数は60歳～80歳代が多く平均年齢は72.4歳であり、前回の調査結果より年齢層が高くなりました。入院構成比については、新規157名、再入院84名で再入院率は34.9%となりました。

かしま病院では、より良い病院となるためには皆様の満足の度合いやご意見をお聞きし、運営に反映させていくことが必要と考え、退院患者さんを対象にアンケート調査を行いました。ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。



ENQUETE

「施設」「接客」「サービス」に関する満足度



上から順に、主に「施設面」「接客面」「サービス面」に分類されますが、接遇面（「接客面」「サービス面」）での満足度が相対的に高く、施設面が全体的に低いという結果になりました。「接客面」については全体的に前回より高い評価を頂いています。

ENQUETE

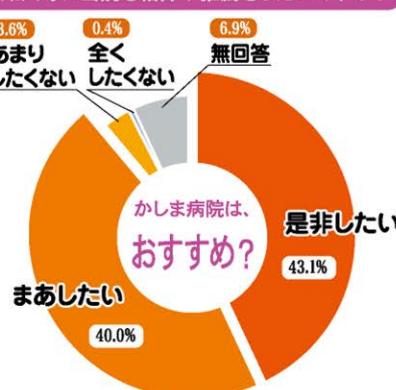


総合評価

総合的に当院を評価すると何点ですか？



知人等に当院を紹介や推薦をしたいですか？



がたいかについては、肯定的な方が89.1%で否定的な方が4%という結果になりました。がたが総合的な点数では、81点以上と評価していただいた方が56%でしたが、一方、50点未満と不満をもたれていました。かしま病院を知人等に紹介した方が2.5%おりました。かしま病院は、肯定的な方が89.1%で否定的な方

Voice 患者さんからの声 /

VOICE



お世話になりありがとうございます。どの場所であっても職員のみなさまが挨拶してくれます。それが気持ちいいです。（70代・女性）



ポリープ切除術の一日の入院でしたが、安心して一日入院できました。（50代・男性）



大変親切に対応して頂き、コロナ防止の中でも快適に入院生活を送ることができました。厳しい医療環境の中で誠意をもって携わっておられる皆様に心から感謝申し上げます。（80代・男性）



コロナの影響で面会できなかったのが長期間だったので、面会できる部屋を設置していただきたい。（60代・女性）



全身麻酔での手術を行いましたが、術後の痛みも少なく過ごせる事ができました。何より看護師さんの明るく元気な姿にいっぱいの元気をもらう事ができ感謝しております。常に笑顔で接して頂きありがとうございました。ケアの男性の方も明るく、入院生活も楽しく過ごす事ができました。わが娘も看護師を目指して学生をしております。かしま病院の皆様のように笑顔で優しい看護師になってほしいと思いました。お世話になりました。（40代・女性）



調査を終えて



かしま病院では、今後も当院の理念である「地域医療と全人的医療の実践」のもと、地域の皆さんや患者さんに寄り添った医療を提供していきます。その中で、患者さん及びご家族の方によりご満足いただけるよう努力して参ります。

NOTE

* 患者ご家族様の声 *

在宅医療の出会いから生まれた私の時間

誰しも人生初の経験というものは何度も訪れるだろうが、3年前主人が脳出血で倒れて以来、私たち家族にはそれが毎日のようにやってきた。脳出血後遺症？ 装具？ 介護認定？ 特にリハビリのためかしま病院に転院してからは「？」の連続で、いかに自分がのほほんと暮らしていたか思い知らされたものである。

そんな中主人が退院の日を迎えた。当初はしかるべき施設のお世話になった方が安全では、と言う話もあったが、遠方に住んでいた長男が帰郷、同居し介護に協力してくれるということで、自宅での療養を決意した。

もちろん大きな不安は伴った。看護も介護も経験のない私が、主人の健康を損なわず日々過ごすことができるだろうか。何かあって命を脅かすことになったらどうしよう。そんな懸念を担当医に相談すると、これまた私にとって初めての単語が彼女から発せられた。「週に一度の訪問看護、月に一度の訪問診療で今後も一緒にフォローしますよ」。これで私自身、一気に前向きになれた覚えがある。突発的に何かが起きても24時間対応してくれるという手厚さへの安心感。それなら大丈夫。家族みんなで暮らしていくける。

そして2年、今では訪問看護は卒業し、日常の移動は自

身の足と杖でできるまでになった主人。月に一度の訪問診療で安定した生活を送れてい

る。当然私も自分のために使える時間が増えてきて、以前からやりたかったことを決行。なんとエッセイを自費出版してしまったのだ。『サンタさんはいないぞ大作戦！』と銘打ったこの本は、ウィリアムズ症候群という染色体疾患を持って生まれた次男とのあれこれを、情報紙『こみみ』で不定期連載したものをまとめたエッセイ集だ。ぜひ読んでみてほしい。障がい児との生活とは思えない失笑苦笑9割の内容くなっているので。

まさか介護真っ最中の状況で自分の本を出せるとは思わなかった。地域に密着した上に家族のケアまでしてくれる訪問診療、かしま病院のおかげだなあ、と改めて感じる昨今なのである。

※著書『サンタさんはいないぞ大作戦！』は、市内書店にてお求めいただけます。
金額：¥550（税込）著者：山口たじこう



山口様ご夫婦と中山文枝医師



ものがあつても人がいなければ
医療は困難です

医療センターへ呼吸器内科医を

20年前に、研修医制度の変更に伴い、全国の市中病院の働き盛りの医師が大量に大学病院へ引き揚げてしまい、深刻な医師不足が起きました。

愚生の所属する東北大学の医局では共立病院呼吸器外科からの撤退が決まり、愚生も17年間勤めてきた共立病院から東京の某病院呼吸器外科への転任を告げられました。東京での生活を拒否したところ、医局から見放され

れ働き場を失いました。
そんな愚生に現名管理事長の中山元二先生から声が掛かりました。去り行く共立病院に未練はありませんが、共立病院から「お前の代わりはいくらでもいい」と言われ、已むなく、かしま病院にお世話になる決断をしました。もうすぐ72歳になりました。こんな年齢まで入院患者さんを一人で担当しているとは、想定外でした。

先日、県立医大からある患者さんの転院依頼状が届きました。76歳の男性です。腎臓癌の手術を共立病院泌尿器科で受け、途中で非結核性抗酸菌症が見つかり県立医大から応援に見えている呼吸器内科に掛かる様になり、さらに肺癌がみつかり労災病院で左肺の切除術を受けたそうです。大きな病院の3つの科に通っているうちに糖尿病も見つかり、かしま病院にも定期通院するようになりました。10年の経過で非結核性抗酸菌症が進行し、1年前から3～4種類の抗菌剤による



ほうが大です。また、当院で治療するにはマンパワーが不足し、老医一人では無理でなく地元での治療が望ましい。糖尿病で通院している関係もあり、常勤呼吸器内科医のいるかしま病院で治療出来ないか、とのことでした。念のためレントゲンやCTを送つてもらいましたが、当科に入院しても自宅退院に持つていける可能性は殆どありません。いや、転院中に増悪する可能性の

がなかつたら不可能です。いつかはこうながなつたら無理です。専門家ならば予想できた筈です。最

治法が始まりましたがあまり効果がなく、左肺はほとんど機能しなくなり、右肺も徐々に壊れていきました。1ヶ月前に酸素不足のために自宅で意識を失い医療センター（旧共立病院）に救急搬入されました。

医療センターには常勤の呼吸器内科医はないので、数日後に吸入療法を目的に県立医大に転院されました。高齢で、誤嚥性肺炎も併発し、呼吸不全が進行し人工呼吸療法となりました。当初の目的的吸入療法は行えず、人工呼吸療法からの離脱も困難になりました。

紹介元の県立医大によりますと、衰弱が

ひどく直ぐには改善しない

（呼吸器科部長 山根 喜男）



ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医育成への挑戦～



患者さんに最良の治療を提供するために最も有用な手段の一つに診断があります。正しい診断に至れば、おのずと最良の治療方法が決定し、結果として最良の結果につながりやすいでしょう。逆に診断がつかなければ、どのような治療方法が妥当なのかが分からず、その後の治療が暗中模索で行われることになるでしょう。診断は医療の提供において重要かつ有用な手段と言えるでしょう。

それでは、正しい診断を得るためにあれば、医師はどのような手段を講じても良いでしょうか？確かに、診断の確定が有効な治療に直結するのであれば、診断に必要な検査を積極的に行うべきでしょう。しかし、対象が後期高齢者の場合はどうでしょうか？苦労して辛い検査を受けていただき、せっかく“なんらかの診断”がついても、衰弱していて全身状態が悪い、「もう充分生きたから」と治療を希望しない、認知症があるために治療に対してご本人の協力が得られないなど、種々の理由で標準的治療が適用できないことも珍しくありません。

超高齢社会の日本に、よく鍛えられた総合診療医が多くいると、きっと皆さんのお役に立てると思います。総合診療医に

第140回 診断は目的ではなく手段

診療部 石井 敦



求められる重要な役割の一つに診断能力があります。総合診療医は、検査を実施する前に、丁寧な医療面接（問診）と身体所見（診察）を行い、緊急性がないか？可能性が高い疾患は何か？そもそも治療可能な病状か？を評価し、検査は治療方針決定のために必要な項目に絞って実施します。問診と診察だけで診断に至れば、検査なしで治療に踏み切ることもありますし、逆に有効な治療が見いだせないほど病状が悪いと判断すれば、患者さんのご意向を確認し、よく相談したうえで、診断確定に固執せず、敢えて苦痛をともなう検査や治療を回避し、苦痛の緩和に専念するという選択をする場合もあります。

医師として経験を積めば積むほど、時にどんなに努めても診断困難な事例に遭遇します。しかし、診断がつかなければ手も足も出ないようでは、医師としての責務を全うすることはできません。診断はあくまでも手段に過ぎず、目的ではないということは肝に銘じておきたいところです。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第127回

コグニサイズについて

現 在、新型コロナウイルスの流行で認知症の方が増えている事をご存知ですか？外出の自粛、運動や人の交流不足が認知症を引き起こす原因と言われています。そこで、今回は自粛中でも出来る「コグニサイズ」を紹介したいと思います。

コグニサイズとは認知症予防を目的として、運動と認知トレーニングを同時に使うというものです。認知（コグニション）と運動（エクササイズ）を組み合わせた造語でコグニサイズと名付けられました。コグニサイズを行う上で、ポイントや注意点があります。誰にでも無理なく始められるが、運動である以上、入念なウォーミングアップが必要です。

安全かつ効果的に行うためにも以下の項目を守るようにしましょ

う。「①無理はせず、ストレッチ等の準備運動をしてから行う ②こまめに水分補給をし、痛みが起きたら休む ③転倒に注意しながら、ややきついと感じる位の運動をする ④なるべく運動を継続し習慣化する」の4つです。

ではポイントを理解した上で、いくつかコグニサイズを紹介します。1つ目は数を数ながら足踏みをし、3の倍数の時に手叩きをします。慣れてきたら5の倍数も追加していく、難易度を上げていきます。2つ目は、家族と散歩をしながら、順番にしりとりや計算、慣れてきたら連想ゲームをしていきます。上記のコグニサイズで「歩く・立つのが大変だ」という方は椅子に座りながらでも出来ます。是非、やってみて下さいね。また、自分でコグニサイズを考え、実践してみるのも良い認知症予防になると思います。

作業療法士 鈴木 ゆうか



かしま荘通信

お盆供養



8/13(金)

8月13日、お盆を迎えた仮壇を前にして入居者様の皆様、穏やかな表情で手を合わせている姿が印象に残りました。ご先祖様を供養することや、最近では仮壇に手を合わせるという事も少なくなってきたが、このような習慣は忘れないものです。



10月11日は通常診療です。

10月11日はスポーツの日でしたが、今年は東京オリンピック開催に伴い7月23日に移動したため、平日になっています。当院では、通常通り診療を行いますのでご承知ください。休診や診察変更のお知らせは、当院ホームページにて随時更新しておりますので、来院前にご確認ください。

